

平成12年10月15日

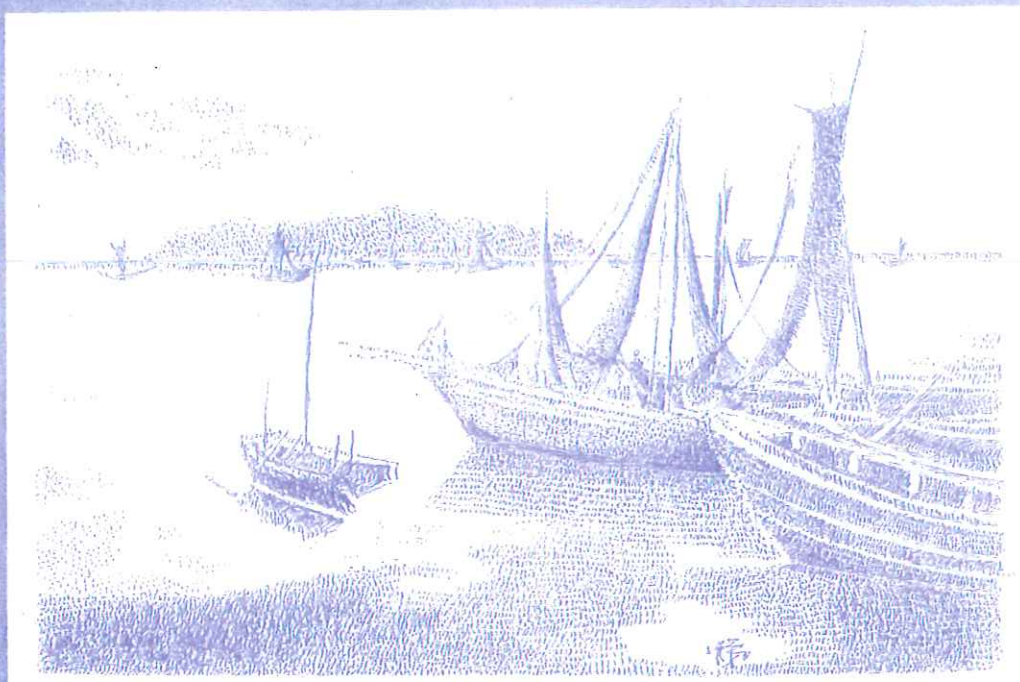
第6号

柳川郷土研究会  
会誌「水郷」付録

すいきょう

# 瓦版

発行所 柳川郷土研究会  
柳川市本城町113-1  
発行人 武松 豊



## 土竜(もぐら)の囁き

作家の童門冬二氏が立花宗茂公を書いた。戦国武将として秀吉に絶賛された人柄。書くに足りる筈だと思っていたが喜ばしいことだ。今秋、郷土研究会では滋賀県大津所在の「圍城寺」などを訪問することになっているが、あの寺こそ、宗茂公が京極高次攻撃のため陣を布かれた場所である。

所で、柳川藩の三大祇園は、一、渡瀬の大蛇山。二、上庄の大人形。三、野町の祇園さん。考えると、大蛇の目玉とりは天津城攻めを想定したもの、大人形は徳川との和解の象徴、野町の祇園さんは公の復帰と平和の到来を喜ぶ藩民の声を示すものと思えてくる。

所で、宗茂公は死に臨み、どんな吐きをなされただろうか。土竜には聞かえる。「家康殿は運のいい人じゃよ、立花勢が関ヶ原に到着していたら絶対西軍が勝ったものを」「いざ、あの世やからで家康殿と鳥鷲(基)の闘いでも致すか」「わっはっはっはっ」

土竜